

⑧【複数年度(1年目)】『ビワイチ』との結節による日本遺産「鯖街道」自転車走行空間創出社会実験 (福井県小浜市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ サイクルツーリズムとしての安全で快適な自転車走行空間のあり方、沿道に残る街道遺産への誘導方法を検証する。
- ・ サイクルツーリズムの推進に資する自転車利用環境の向上に関する有効な検証であり、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

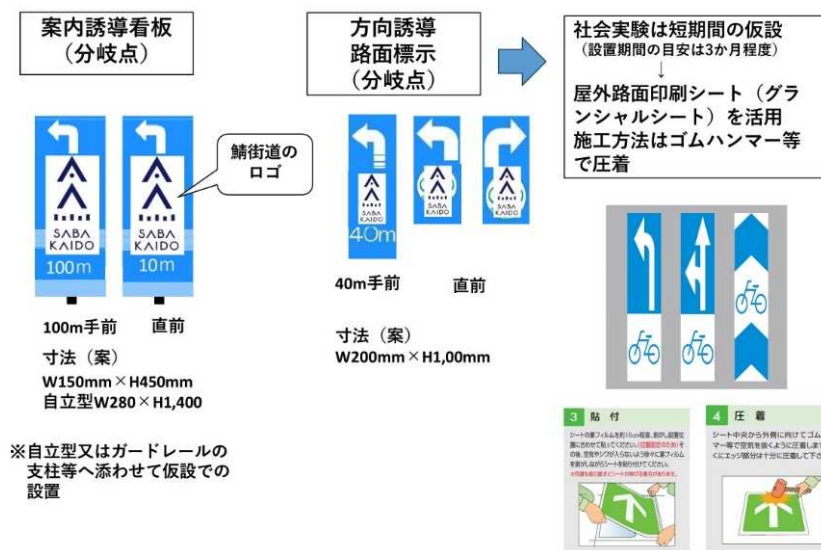
2. 今年度の調査内容、調査結果

- ①「鯖街道」と『ビワイチ』との結節のためのアクセス等の検証
⇒「鯖街道」と『ビワイチ』間の接続ルート・ポイントの検証
- ②「鯖街道」の安全安心で快適な自転車走行環境の検証
⇒旧道や脇道、国道への合流地点等の案内誘導サインとして、4地点で2種類の検証
⇒徐行を促す新たな注意喚起看板を設置
⇒自転車利用者向けの路面標示を検討



現地実証実験区間

旧道等への案内誘導サインの設置 (案)



案内誘導サイン(案)

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
「鯖街道」から『ビワイチ』への接続ルートの案内誘導に関する検証	案内誘導サインの種類、設置場所、設置方法の検証
旧道への案内誘導サインの設置検証	案内誘導サインの種類、設置場所、設置方法の検証
宿場町や沿線集落における人(歩行者)と自転車との共存(空間配分)に関する検証	駐輪スペースの確保や案内誘導表示、注意喚起等の検証

⑧【複数年度(1年目)】『ビワイチ』との結節による日本遺産「鯖街道」自転車走行空間創出社会実験 (福井県小浜市)

4. 今後のスケジュール

- | | |
|------------------|---------------------------|
| ➤ 令和6年4月～5月 | 事前準備、道路管理者等との協議 |
| ➤ 令和6年6月～9月 | 設置物等の制作、モニター募集、案内誘導サイン等設置 |
| ➤ 令和6年10月 | 実験実施、モニター走行 |
| ➤ 令和6年11月～令和7年2月 | 設置物撤去、結果分析、まとめ |

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
来訪者に対しての「鯖街道」地域のアピールが不十分である。	現地実証実験の際、webやチラシを作成するなど域外向けに発信していく。
観光で自転車を利用する初心者や中級者の人に向けた、自転車で回ってみたいくなる環境整備が重要である。	対象は自転車を利用して観光する人(針畑越えは上級者向けのルート)なので、今回は若狭街道(特に小浜～熊川間)を中心に実証実験を行う。また、旧道への誘導を積極的に行い、通行車両によるストレスを軽減し、トンネル内走行をできるだけ回避する。
迷わずに目的地まで行けるという安心感を持ってもらえるような走行環境整備が重要である。	迷いがちな分岐点や交差点の案内誘導に力点を置いて検証を行う。
交差点、分岐点での路面標示など見落としがないような工夫はできないか。案内誘導にあたり路面をどれだけ活用できるかを検証してもらいたい。	路面標示について、適正かつ視認性を確保した方法を検討する。自立型サインと路面標示、どちらの視認性が高く、迷わずに走行できるかを検証する。
公共交通機関との連携は今回の社会実験では難しい。鉄道やバスとの連携について、まずサイクリストのニーズ調査を行い、今後につなげてもらいたい。	サイクルトレイン、サイクルバスについては、国の手引書をもとに、サイクリストへのヒアリングを行う。
歩行者との共存について、旧道や宿場町・町並みの路地は幅員が狭いため、自転車との速度差をなくす方法で歩行者の安心感を確保する。	熊川宿内の自転車走行に対して、規制はできないが、実証実験では「徐行」を促す注意喚起などを検証する。
「鯖街道」を連想する統一的なサインがあれば、利用者の不安がなくなる。路面標示については道路管理者や警察と協議して進める必要がある。	「鯖街道」のロゴマークを統一ロゴとしていく考えである。路面標示の具体的な場所、設置内容のプランを作成し、関係機関と協議する。

6. 評価

- ・ 順調に実験が進んでいる。
- ・ 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。